

CONFIDENTIAL

# SCPP事業案内資料





# ABOUT US

株式会社SCPPとは？

iPS細胞領域の社会実装を  
“事業視点”で支援する  
プロジェクトパートナーです。

**事業内容**：パートナー企業の事業収益を加速させる戦略的パートナーシップ締結

**関与領域**：iPS細胞、再生医療、培養上清、細胞バンキング、医療ツーリズム

**活動内容**：パートナー企業の海外展開、海外富裕層の送客、

国内におけるエージェント業務、医療機関開拓支援

# 今こそ iPS市場に 目を向けるべきである

かつて、不老長寿は権力者たちの叶わぬ夢でした。しかし今、iPS細胞という創造的で革命的な大発見がその夢を現実化し始めたことでiPS細胞を基盤とする「複合的な巨大市場」が創出されています。



**「理想的な参画時期到来」**

# 細胞の初期化技術：iPS細胞（人工多能性幹細胞）とは？



## 無限に分裂（培養）できる

適切な環境下で半永久的に増殖し続ける能力  
臨時期課題をクリアした再生量の理想型

## 何にでも分化することができる

神経・軟骨・網膜など、体内のあらゆる  
組織や臓器の細胞へ分化する無限の可能性



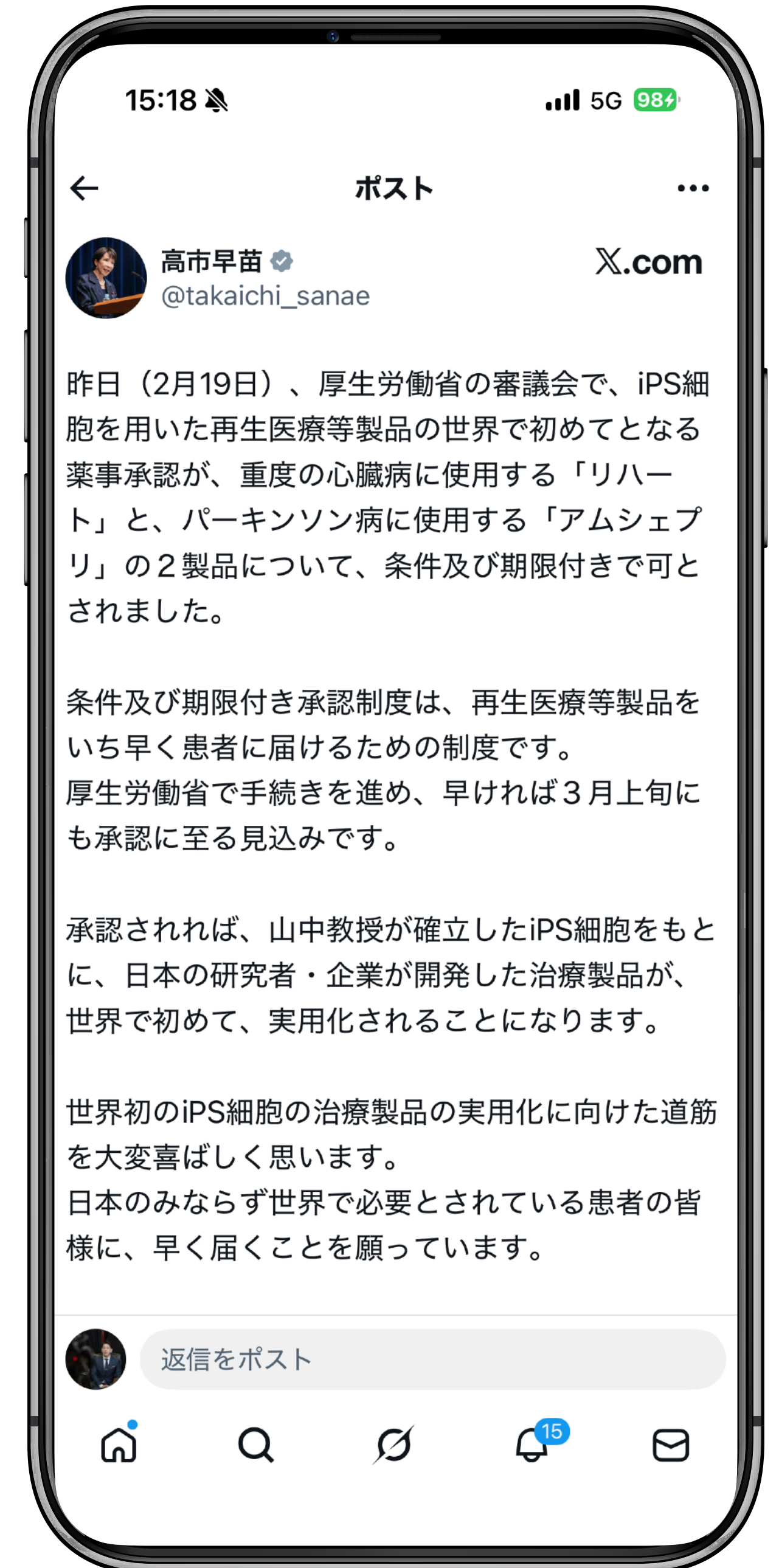
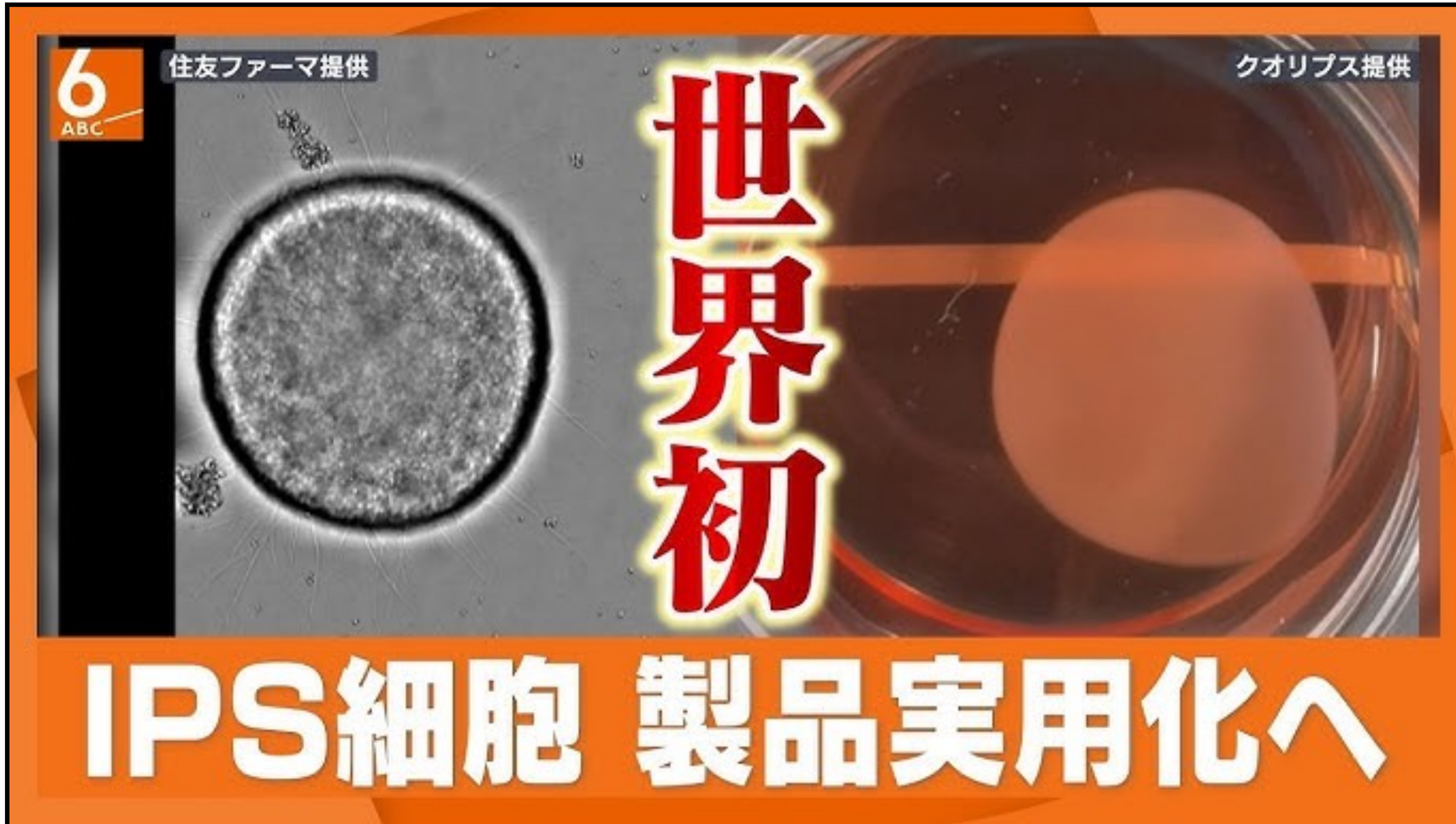
山中 伸弥 Shinya Yamanaka

- ・ 京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授
- ・ 京都大学iPS細胞研究財団理事長（兼務）
- ・ 米国グラッドストーン研究所上席研究員（兼務）



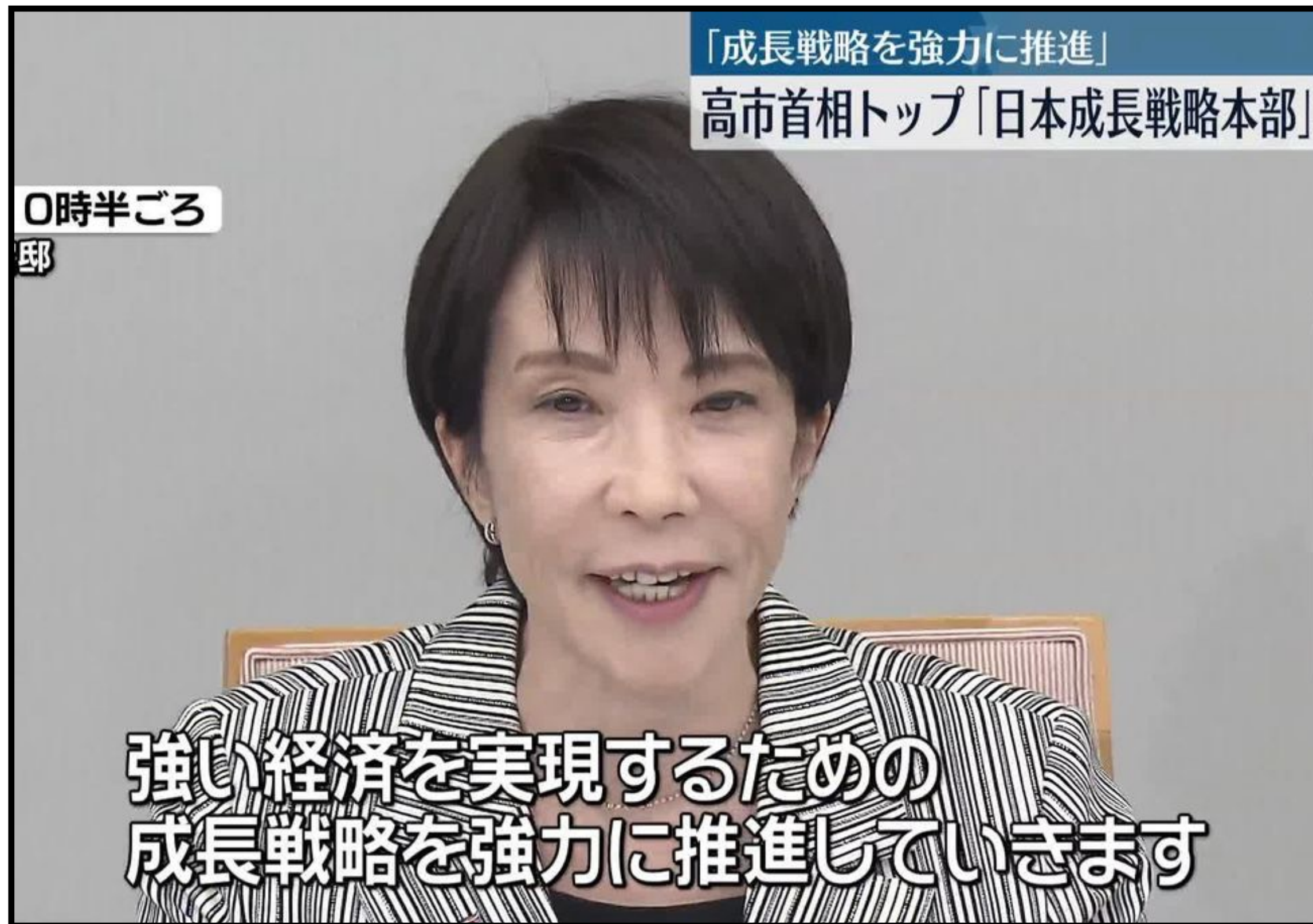
# 世界初 “iPS製品の実用化、承認！”

2026年2月19日、厚労省審議の上、正式にiPS実用化が決定（高市首相も祝福）



# 国家成長戦略「17分野」に選定

iPS細胞の技術基盤を強みに海外市場の獲得を狙うことを宣言



戦略分野	主要な製品・技術等	このうち、先行して検討を進めている製品・技術等	選定の考え方	方向性
マテリアル (重要鉱物・部素材) 経産省	①永久磁石 ②革新的金属部素材 ③低炭素金属部素材 ④一次原料(鉱石等)及び二次原料(リサイクル材等)の循環資源からの製錬・分離精製、解体選別技術 ⑤AI等を活用した複合新素材	①永久磁石	自動車や産業機械等の基幹産業の生産活動に不可欠。我が国は高性能磁石の製造技術で優位性を持つ一方、重レアアース等の原材料供給は特定国に大きく依存。EV普及等に伴い、ネオジム磁石の世界需要は0.6万トン(2017年)から16.1万トン(2040年)に増加が見込まれ、生産能力確保が課題。特定国の輸出管理強化で供給が不安定となる中、自律性・不可欠性の確保が急務。	特定国以外で高性能磁石の供給能力を有するのは我が国のみ。原料調達先の多角化に加え、省レアアース/レアアースフリー磁石やレアアースリサイクルの基盤を確立し、永久磁石の生産能力増強を進めることで、国内外の電動車等向けの高性能磁石市場獲得につなげる。
合成生物学・バイオ 経産省	①バイオものづくり ②バイオ医薬品・再生医療等製品等(創薬・先端医療③と同じ)	①バイオものづくり  ②バイオ医薬品・再生医療等製品等	素材・食品・エネルギー等の新たな製法として、2030-40年には約165兆円の経済効果。バイオマスや廃棄物等の国内資源を活用でき、サプライチェーンの特定国・地域への依存低減に貢献。  拡大する医薬品市場(2022年に約200兆円)で、バイオ医薬品・再生・細胞・遺伝子治療等の比率は約4割。国民の健康や生命に直結し、健康医療安全保障上、供給途絶リスクを低減する自律性確保が急務。	発酵産業の蓄積等で強みがある実験・製造工程に加え、AI・データ活用や革新的な基盤技術開発により設計・解析工程を強化し、高効率な製造技術を確立する。経済安全保障や脱炭素の観点で重要な製品の初期需要創出の取組等を促進することにより、国内生産基盤の構築につなげる。  iPS細胞や抗体薬物複合体等の技術基盤の強みを活かし、開発・製造受託の実績を積み上げることなどを通じ、国内生産基盤を維持・構築し、国内の医療ニーズに応えるとともに、創薬ベンチャーのグローバル展開を促進し、海外市場の獲得につなげる。
創薬・先端医療 内閣府(健康医療)、デジタル庁	①ファーストインクラス <sup>※1</sup> 製品・ベストインクラス <sup>※2</sup> 製品(医薬品、再生医療等製品) ②感染症対応製品 ③バイオ医薬品・再生医療等製品等(合成生物学・バイオ②と同じ) ④革新的デバイス(AI、ロボティクス等)を活用した先端医療 ⑤ライフログデータ等を活用したヘルスケア関連サービス <small>※1 全く新しい作用で世界で初めて承認されるもの ※2 同じ作用の製品の中で有用性が最も優れるもの</small>	①ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品(医薬品、再生医療等製品)    ②感染症対応製品	世界の医薬品市場は2022年時点で約200兆円に達し、ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品を含む特許品の世界市場は、年平均9.6%で拡大。また、ファーストインクラス・ベストインクラス製品の供給確保を通じて、治療法が未確立の疾病にも対処することは、国民の健康の維持、健康医療安全保障の実現に直結。  ワクチン、治療薬等は、供給が途絶すれば国民の生命に直結するものであり、健康医療安全保障上、供給途絶リスクを低減する自律性確保が急務。平時と有事の需給変動が大きいため、生産体制の安定的な維持が難しい。抗菌薬は、原材料等を特定国に極度に依存しており、免疫グロブリンは原材料や製造能力不足により平時から国内自給できていない。一部の海外メガファーマが撤退している抗菌薬等の新薬や我が国が強みを有する診断薬等の感染症対応医薬品の海外展開により、一定の世界シェア獲得が見込まれる。	基礎研究力や高品質な治験の強みを活かし、実用化を担う人材の育成・流動性向上や、リスクマネーの呼び込み等によるスタートアップや国際共同治験における資金面・制度面の課題解消を図る。これにより、新たな創薬シーズの創出から実用化まで一気通貫で進める環境を整備し、需要が拡大する海外市場の獲得につなげる「世界直行型」の開発を実現する。  我が国は、供給計画遵守力の高さや生産技術、測定技術等の強みを有している。感染症対応医薬品の研究開発や製造施設の整備、ワクチン・抗菌薬等の買上げ・備蓄、安定供給に資する措置の推進、原料血漿確保体制の強化を通じて、需要創出とともに生産体制を安定化させることで国内に供給するとともに、技術力を活かした高品質な製品を輸出する。

iPS市場はさまざまな領域と接続し「100兆円超の巨大な複合市場」へと成長予定

# iPS市場を形成する七大企業 盤石な基盤の上に広がる ブルーオーシャン

2034年  
100兆円超

国策としての強力な後押し  
高市総理が牽引する経済安全保障  
及び「成長戦略17分野」において  
バイオモノづくり（iPS細胞）が  
名指しで指定。莫大な国家予算と  
法整備が急速に進行中。



医療から美容・ウェルネスまで  
多産業と融合し、100兆円を  
超える巨大な複合市場へと急成長。

SCPPはiPS細胞事業者の中でも有望なベンチャー企業を選定

SCPP BUSINESS PARTNERSHIP

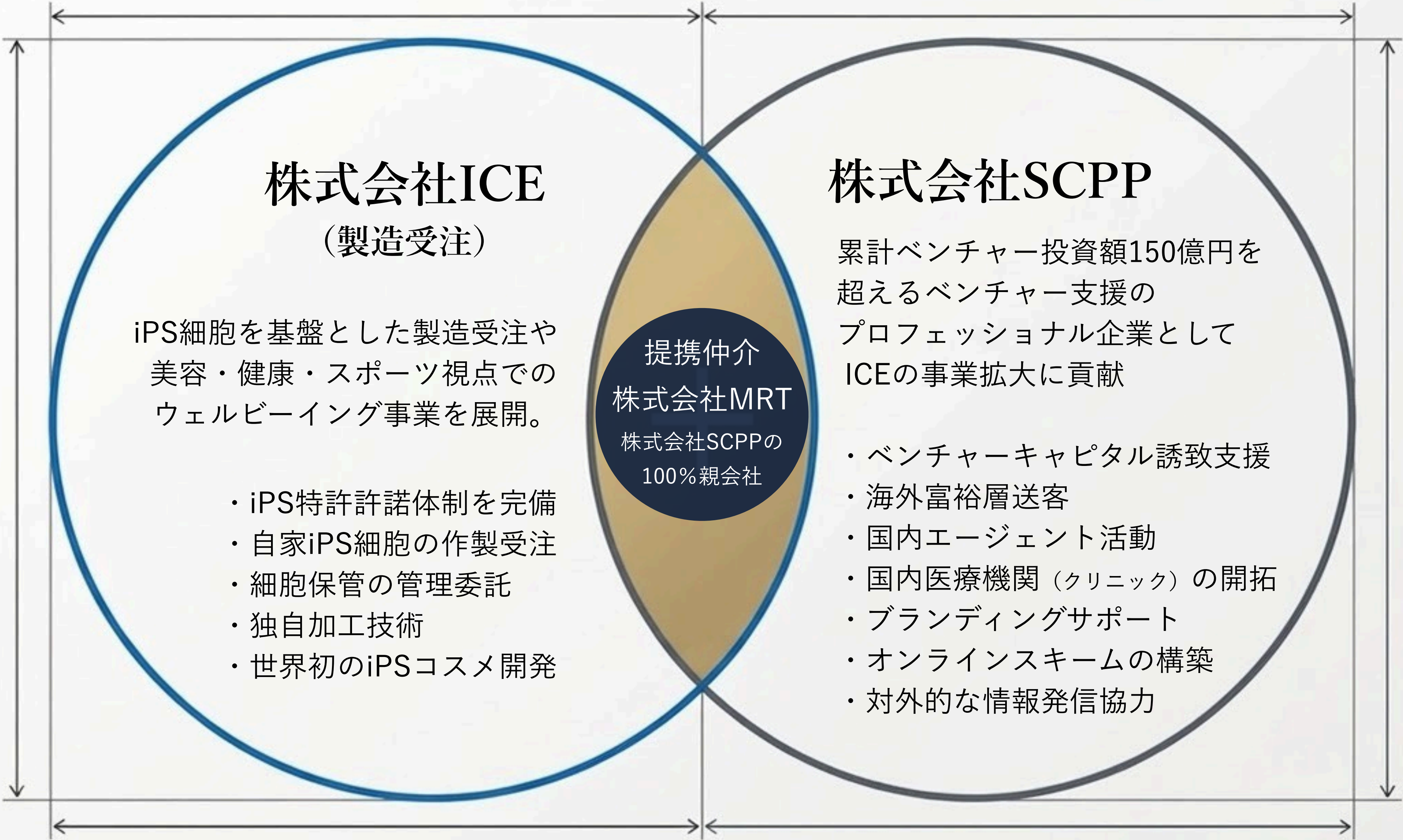
# 戦略的パートナーシップ締結企業

# 株式会社ICE

株式会社ICEは、独自技術「ハイブリッド・ナノリポソーム」を武器に  
iPS細胞の社会実装を牽引するバイオベンチャー企業です。

世界初の開発実績を持つ経営陣と共に次世代市場のシェアを獲得します。

# 成長を最大化する戦略的パートナーシップ (SCPP × ICE)



## 株式会社ICE

(製造受注)

iPS細胞を基盤とした製造受注や美容・健康・スポーツ視点でのウェルビーイング事業を展開。

- ・ iPS特許許諾体制を完備
- ・ 自家iPS細胞の作製受注
- ・ 細胞保管の管理委託
- ・ 独自加工技術
- ・ 世界初のiPSコスメ開発

## 株式会社SCPP

累計ベンチャー投資額150億円を超えるベンチャー支援のプロフェッショナル企業としてICEの事業拡大に貢献

- ・ ベンチャーキャピタル誘致支援
- ・ 海外富裕層送客
- ・ 国内エージェント活動
- ・ 国内医療機関 (クリニック) の開拓
- ・ ブランディングサポート
- ・ オンラインスキームの構築
- ・ 対外的な情報発信協力

提携仲介  
株式会社MRT  
株式会社SCPPの  
100%親会社

※ 企業間の業務特性上、SCPPグループの株式会社MRTがICEとSCPPを仲介



株式会社ICEの公式WEBサイトでは、iPS細胞関連の事業内容や最新のニュースを掲載

# 代表取締役 阪本 欣也：iPS製品化の立役者

確かな技術環境のもと「iPS細胞の社会実装」を実現するアーキテクト



## iPS細胞技術を有する大手先端医療グループから独立 2025年3月に新興バイオベンチャー企業のICEを設立

### 再生医療・美容分野における20年以上の事業開発実績

大手先端医療「アイロムグループ」傘下の副社長をはじめ数々の役員・事業責任者を歴任し、研究開発から製造・ブランディングまでを一気通貫で統括。

### 世界初のiPS細胞コスメや最先端プロダクトの社会実装

iPS細胞培養上清液を活用したエイジングケア製品やトップアスリート向けリカバリープログラムなど、高度なサイエンスを商業ベースに乗せる卓越した実行力。

### 株式会社ICE代表として次世代ヘルスケア市場を牽引

根源的な美と健康をミッションに掲げ、自家iPS細胞や個別化医療・美容サービスを通じた『再生医療の社会実装』を力強く推し進める。

# 取締役 加賀谷 梨恵：科学的信頼の象徴人物

世界初のiPS細胞上清液配合コスメ開発責任者

## 20年以上にわたる医療・美容経験を誇る iPSサイエンスコミュニケーター

### | オックスフォード大等での研究実績とグローバルな知見

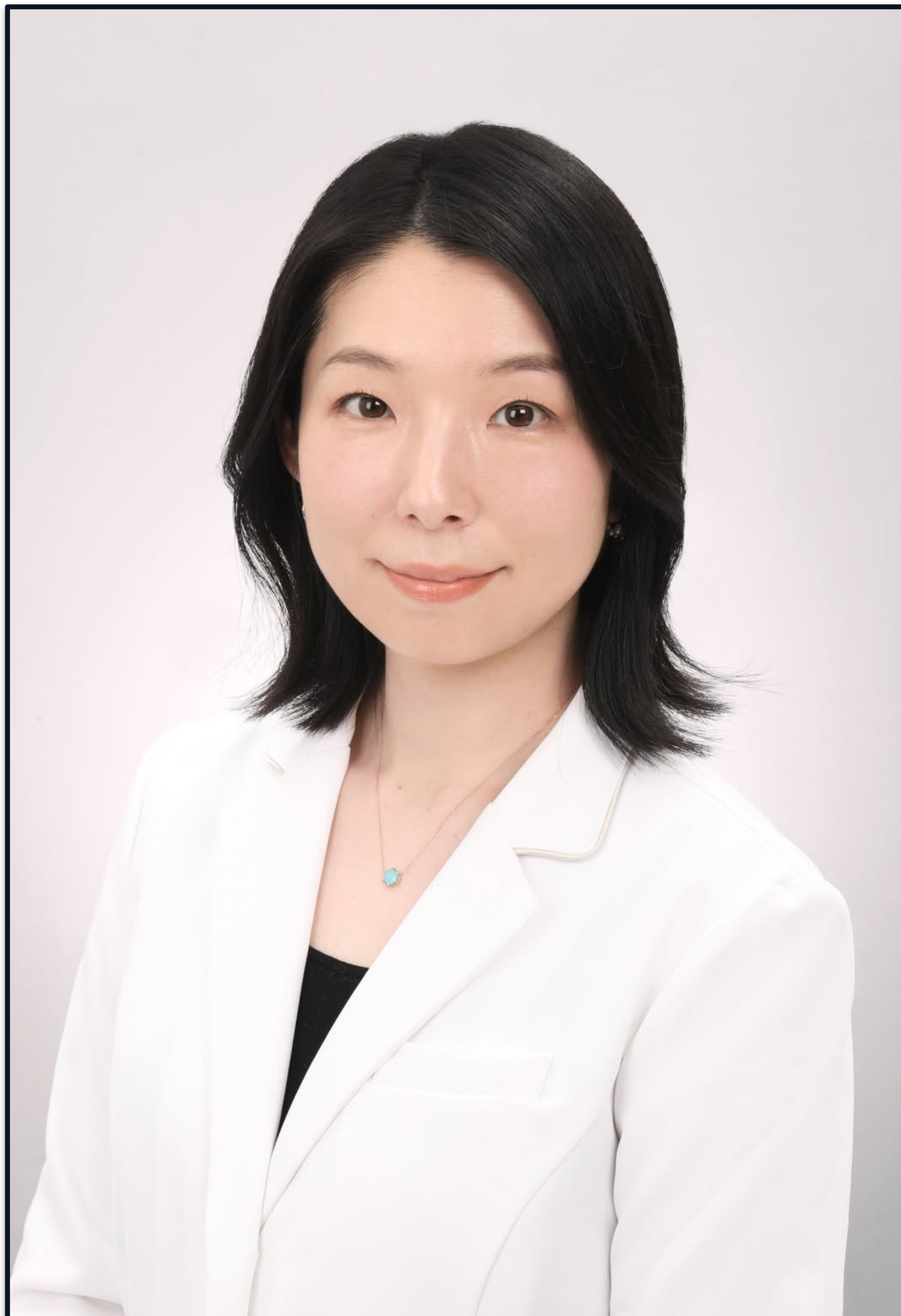
英オックスフォード大および同大学院（分子生物学）修了後、インペリアルカレッジ・ロンドンでの研究職など、15年に渡る欧米での最先端サイエンス経験。

### | メガファーマ戦略立案から起業まで、卓越したビジネス実行力

外資系医療コンサルでの製品ポートフォリオ戦略や海外法人設立支援に加え、医療通訳・翻訳、スクール起業など、医療×ビジネスにおける高度な専門性を有する。

### | 世界初、iPS細胞上清液配合コスメの開発責任者

東証プライム上場医療グループにて6年間、iPSコスメの研究・企画から製造・広報までを一気通貫で統括。2025年より株式会社ICE取締役として美容医療事業を牽引。



# 特許許諾体制完備 = I'ROM GROUP (子会社：ICELLEAP)



同グループ  
↔  
特許技術共有



業務委託契約  
↔  
特許技術共有



**アイロムグループ** (iPS技術の特許元)

再生医療分野のリーディングカンパニーであり、子会社の株式会社IDファーマを通じて「センダイウイルスベクター」を用いたiPS細胞作製技術に関する重要な特許を多数保有。

**ICELLEAP** (アイロムグループの子会社)

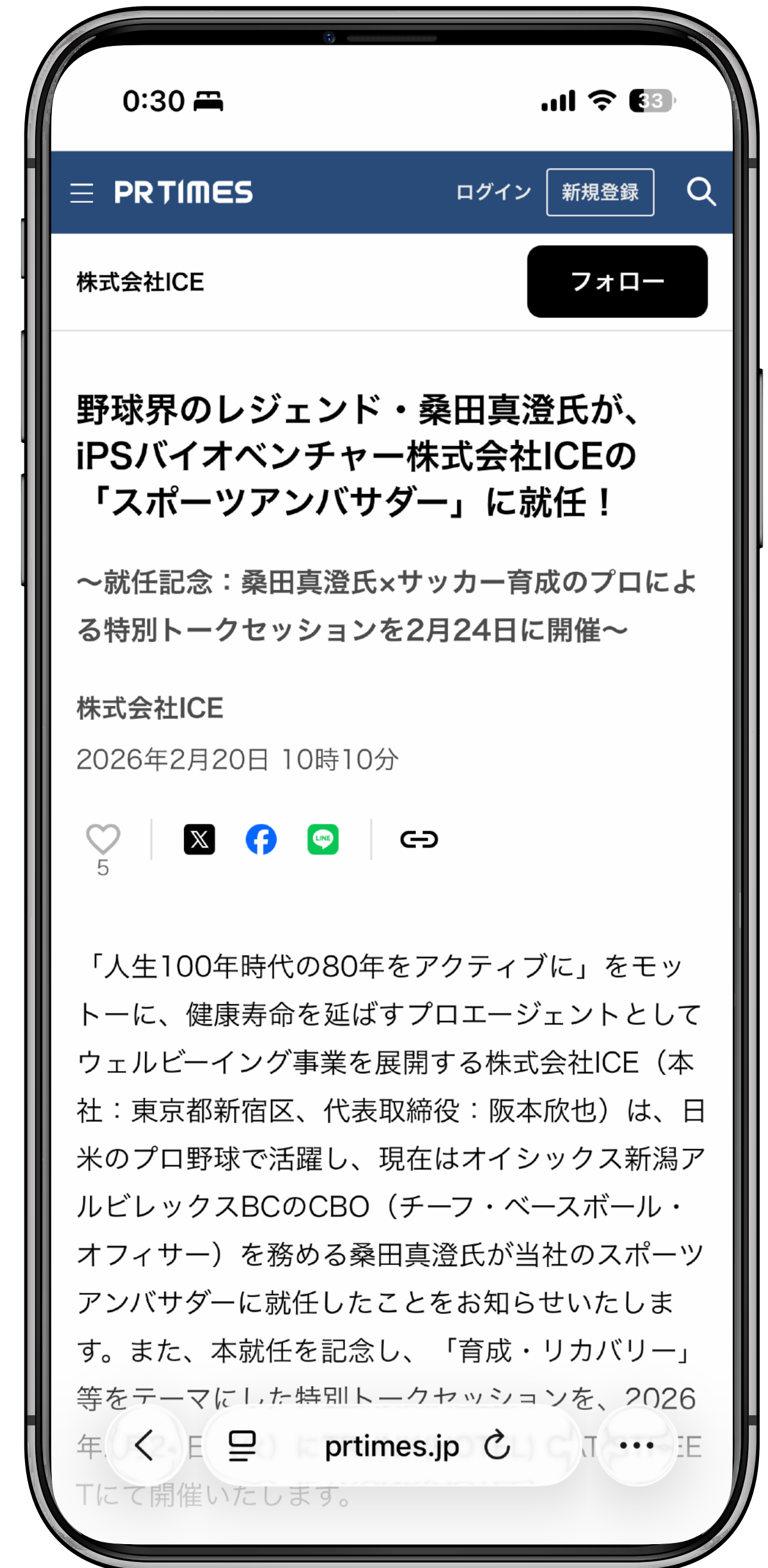
アイロムグループ (親会社) が持つ最先端の再生医療技術・特許・知見を化粧品やヘルスケア事業に応用する役割を担っている。(ICE阪本・加賀谷の両氏が過去に在籍)

**ICE** (特許技術の許諾企業)

**ICELLEAPとの業務委託契約により、アイロムグループのiPS細胞作製技術を活用可。**

※ iPS細胞の基本特許は、主に国立大学法人 京都大学が所有しています。ライセンス窓口：iPSアカデミアジャパン株式会社

# 公式スポーツアンバサダーに あの“桑田真澄氏”が就任！



# ICE運営事業：iPS細胞の特許技術と自社技術の融合

iPS細胞を基盤とした拡張性の高いウェルビーイング事業  
研究・予防・美容・健康・スポーツ

自家iPS細胞の作成受注  
10年間の補完契約

[ストック収益]

独自加工技術  
ハイブリッドナノリポソーム  
による高付加価値化

[技術提供]

iPS細胞由来の  
オリジナル商品を企画開発  
商品製造 & B2B共同開発

[プロダクト収益]

大手細胞機関・教育機関と  
さまざまな共同研究体制

[データ蓄積]

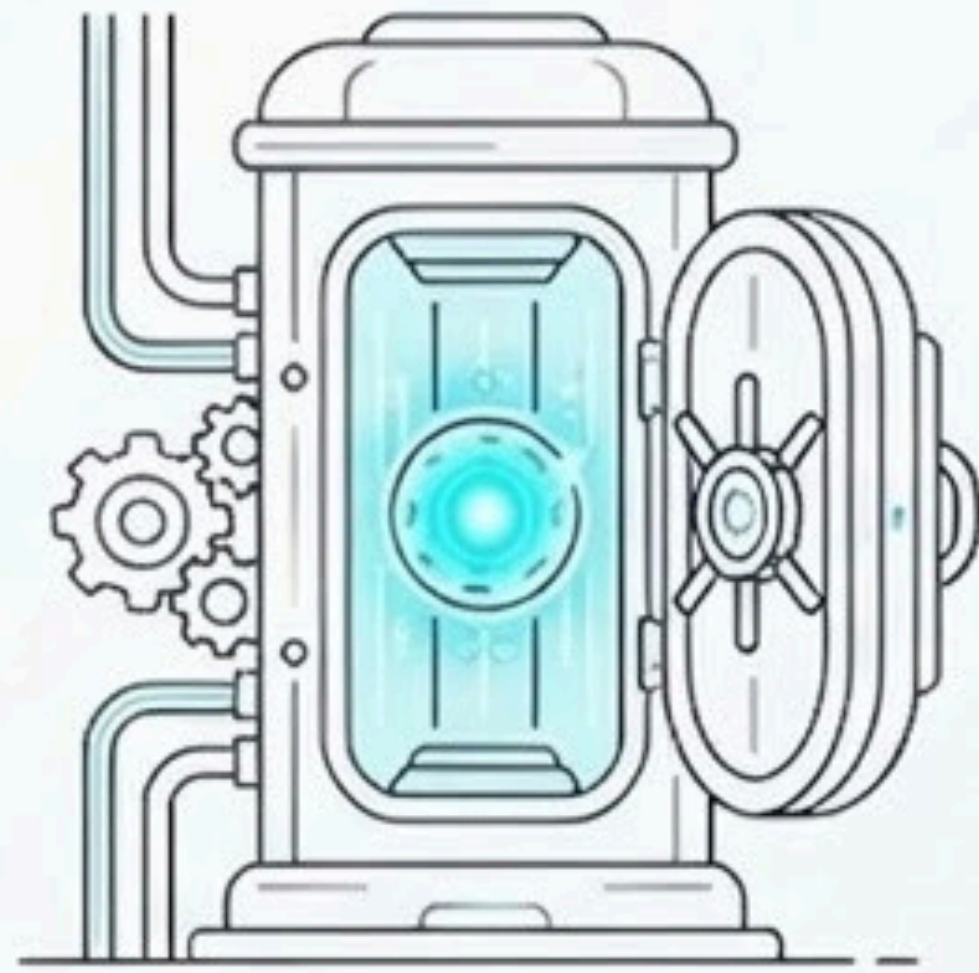
スポーツ・トップアスリート  
分野の路線開拓

[ハイエンド市場]

大手先端医療グループの知財・設備環境 × 多様な事業アイデアと独自加工技術

# 競合優位性の高い2つの事業へ送客

## 1. 再生医療・未来への備え



### 自家iPS細胞の作製と管理保管

自身の細胞からiPS細胞を作製し  
将来の再生医療、個別化医療に備える  
究極の生物学的保険

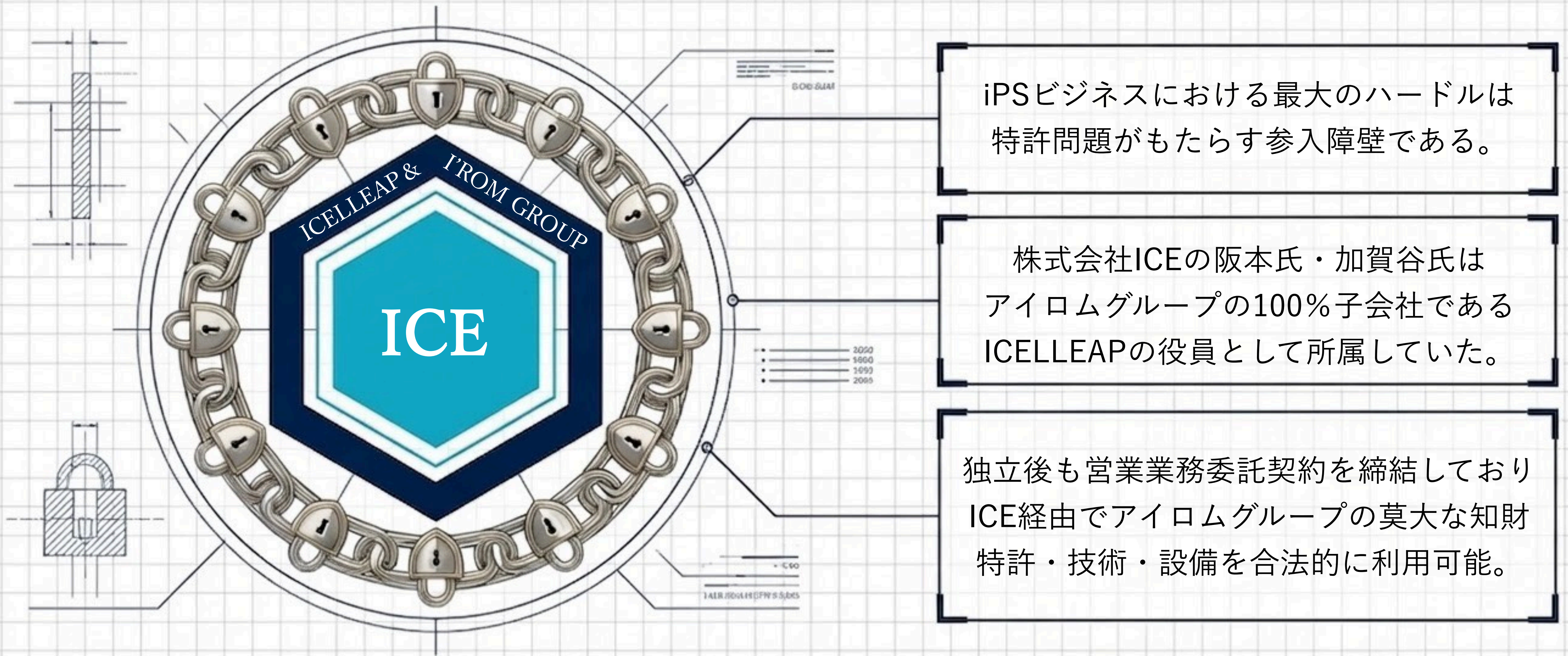
## 2. 即時可能な若返り体験



### iPS培養上清液の独自加工

IPS細胞から高濃度成長因子群を抽出  
エイジングケアに革新をもたらす  
即効性ソリューション

# 絶対的特異性：盤石な特許許諾体制による「参入障壁」



一般企業の追隨を許さない、法的かつ物理的な要塞が完成している。

# iPS培養上清液とは？

iPS細胞



医療用途（細胞そのもの）



iPS培養上清液



エイジングケア（上澄み液）

## 定義

iPS細胞そのものではなく、  
培養過程で得られる  
上澄み液（培養液）を使用。

## 若返り効果の核

遠隔作用するシグナル成分が豊富。  
エクソソーム＋成長因子が凝縮し  
全身の細胞を活性化させる。

## 法的許可

細胞を扱わないため化粧品原料化  
と流通設計が容易。スキンケア、  
スカルプケア、サンケアに最適。

# 圧倒的な含有量：他を凌駕する「成長因子の総量」



脂肪性幹細胞の  
**4.5倍**  
の成長因子

プラセンタの  
**53倍**  
の成長因子

## 見識 Insight

40種類の成長因子の濃度を  
プロテインアレイで解析。  
標準的な原液を遥かに  
上回る高濃度な含有量が  
確認されています。

## 結論 Conclusion

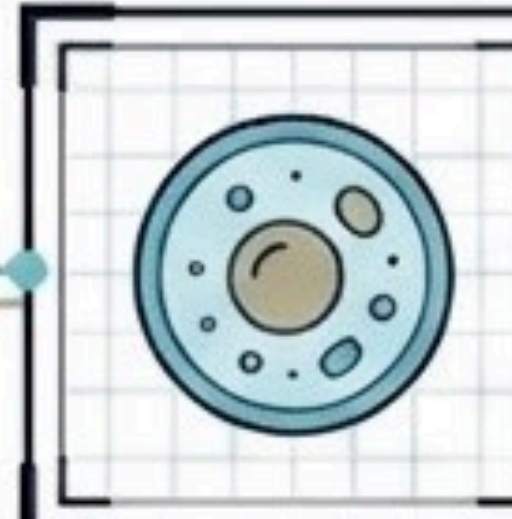
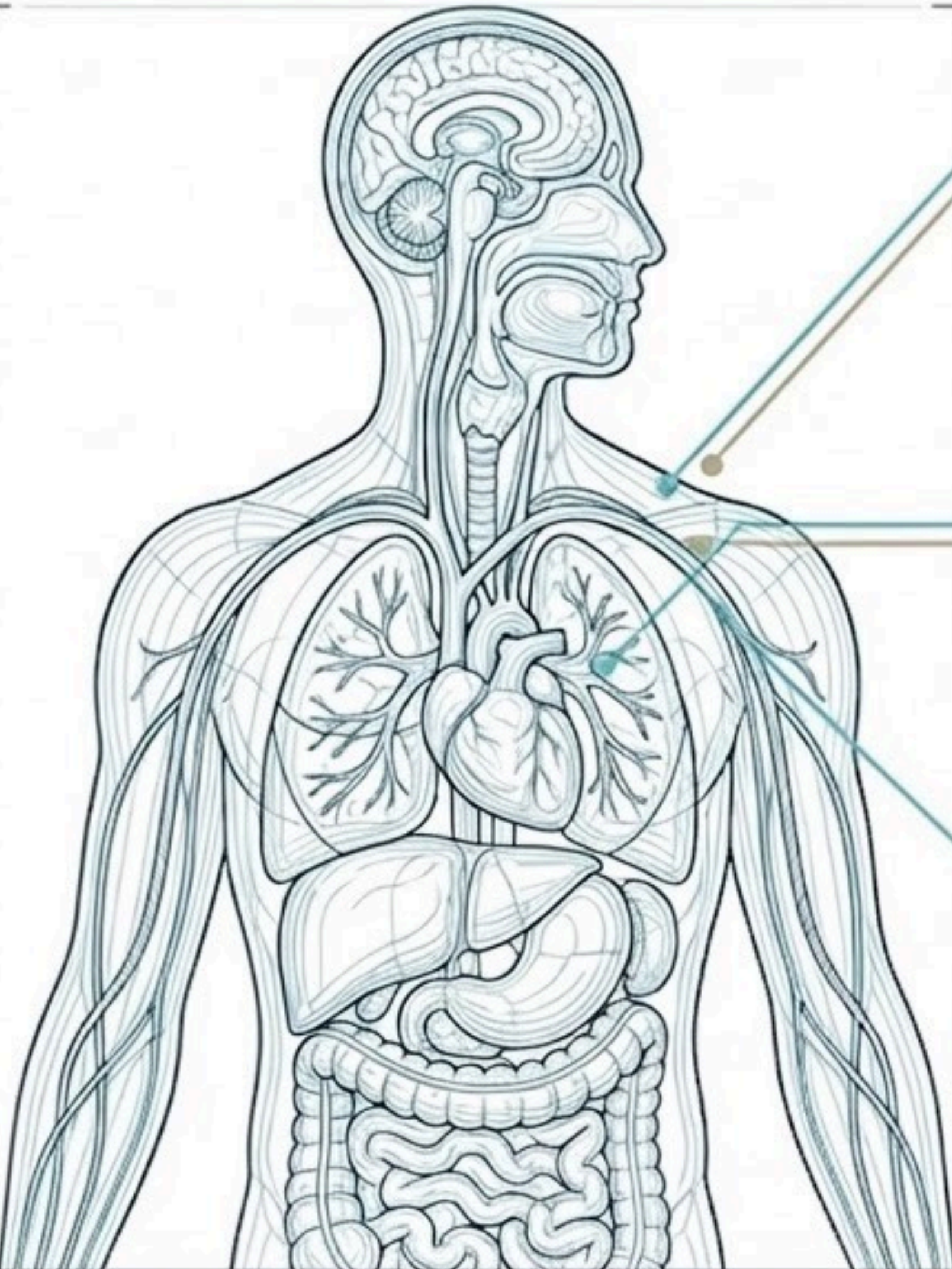
競合がひしめく上清液液  
ビジネス市場において、  
成分量そのもので  
絶対的な差別化が可能と  
なっています。

## 一般的な上清液とiPS細胞培養上清液との比較表

評価項目	プラセンタ	幹細胞	自家iPS細胞
成長因子の含有量	微量	約1,000~1,300種類	圧倒的超高濃度 (4,000種類以上同定)
品質と均一性	不安定	ドナーの年齢・体調に大きく依存、バラつきあり	無限増殖により常に最高品質で均一
期待される効果	限定的	一定の効果	細胞レベルの若返り 全身の機能改善

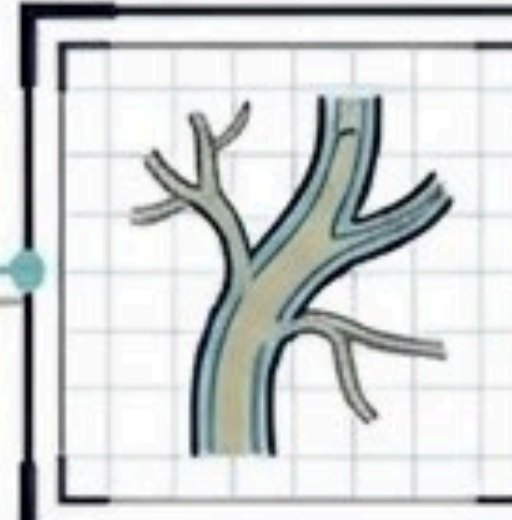
従来の上清液とは「成長因子の含有量」が根本的に異なる。  
比較にならない程のポテンシャルを持つ完全な上位互換です。

# 期待できる効果：細胞増殖・血管拡張・神経修復



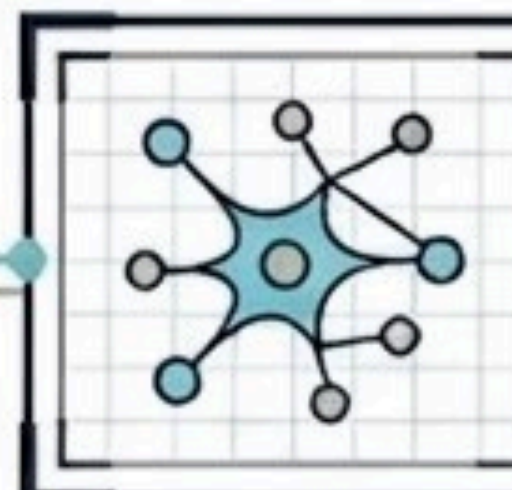
## 細胞増殖 (Skin & Tissue)

体内細胞へ良好な刺激を与え、ターンオーバーを大きく促進し、究極のエイジングケアを実現。



## 血管拡張 (Blood Vessels)

老化した血管の修復と再構築、血流改善による全身の活性化と機能回復が見込める。



## 神経修復 (Nervous System)

老化した神経機能の改善及び強力な抗炎症作用

全身の機能低下を根本から覆す「医療レベルの再生」  
高単価&長期継続ビジネスを成立させる絶対的効能。

上清液ビジネスの競合他社を圧倒する

# “究極の若返り効果”

**生成管理**

自家iPS細胞を作製し細胞バンクで保管

**上清液化**

保管中のiPS細胞から培養上清液を精製

**独自技術**

ハイブリッド・ナノリポソーム化技術で加工

**点滴注入**

有効成分・成長因子を全身に送り込む

ハイブリッド・ナノリポソーム化されたiPS培養上清液こそが最大の差別化要因

iPS Hybrid Nano Liposomes

ハイブリッド・ナノリポソーム化

浸透力10倍

有効成分をナノサイズで包み込み

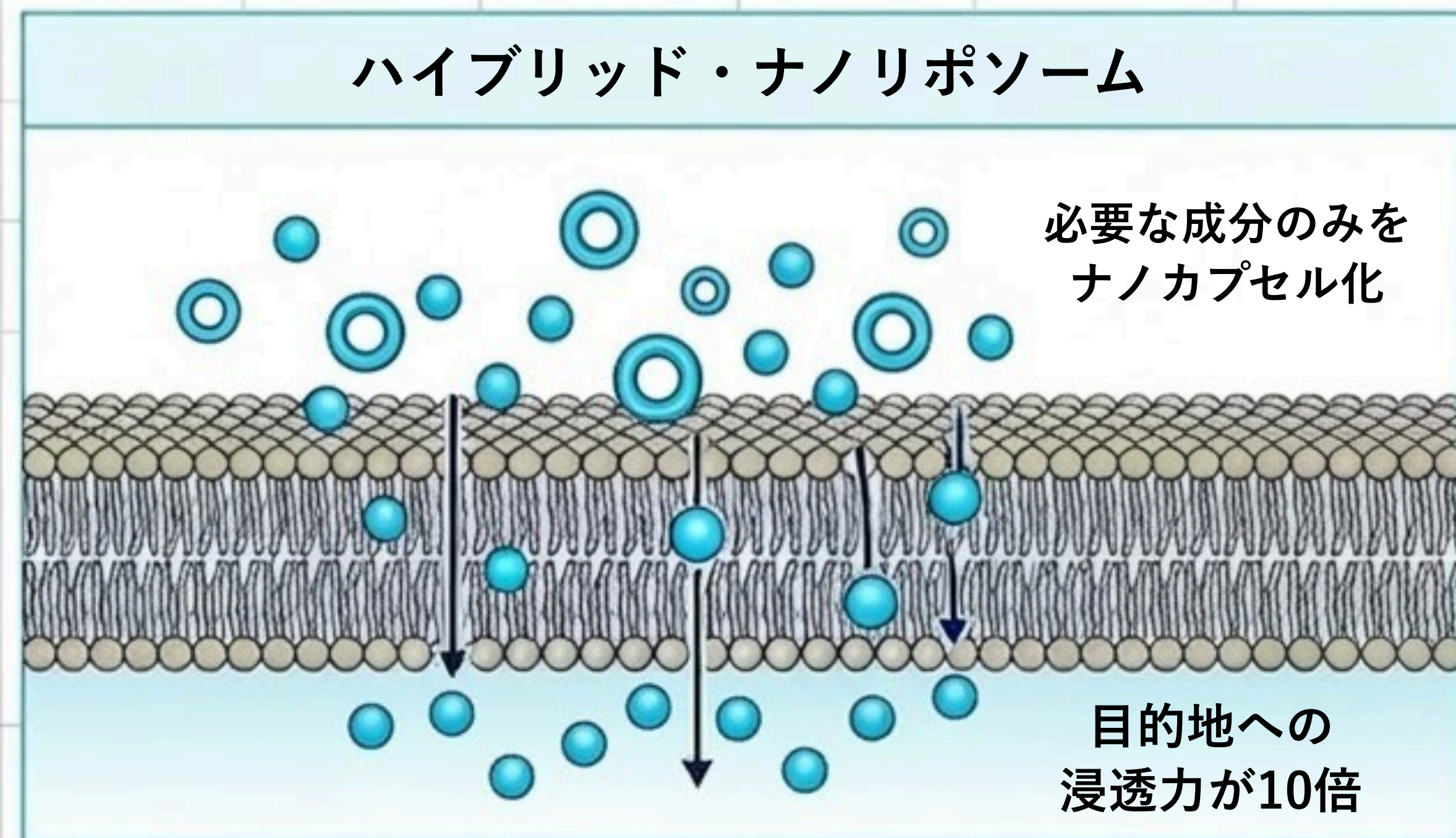
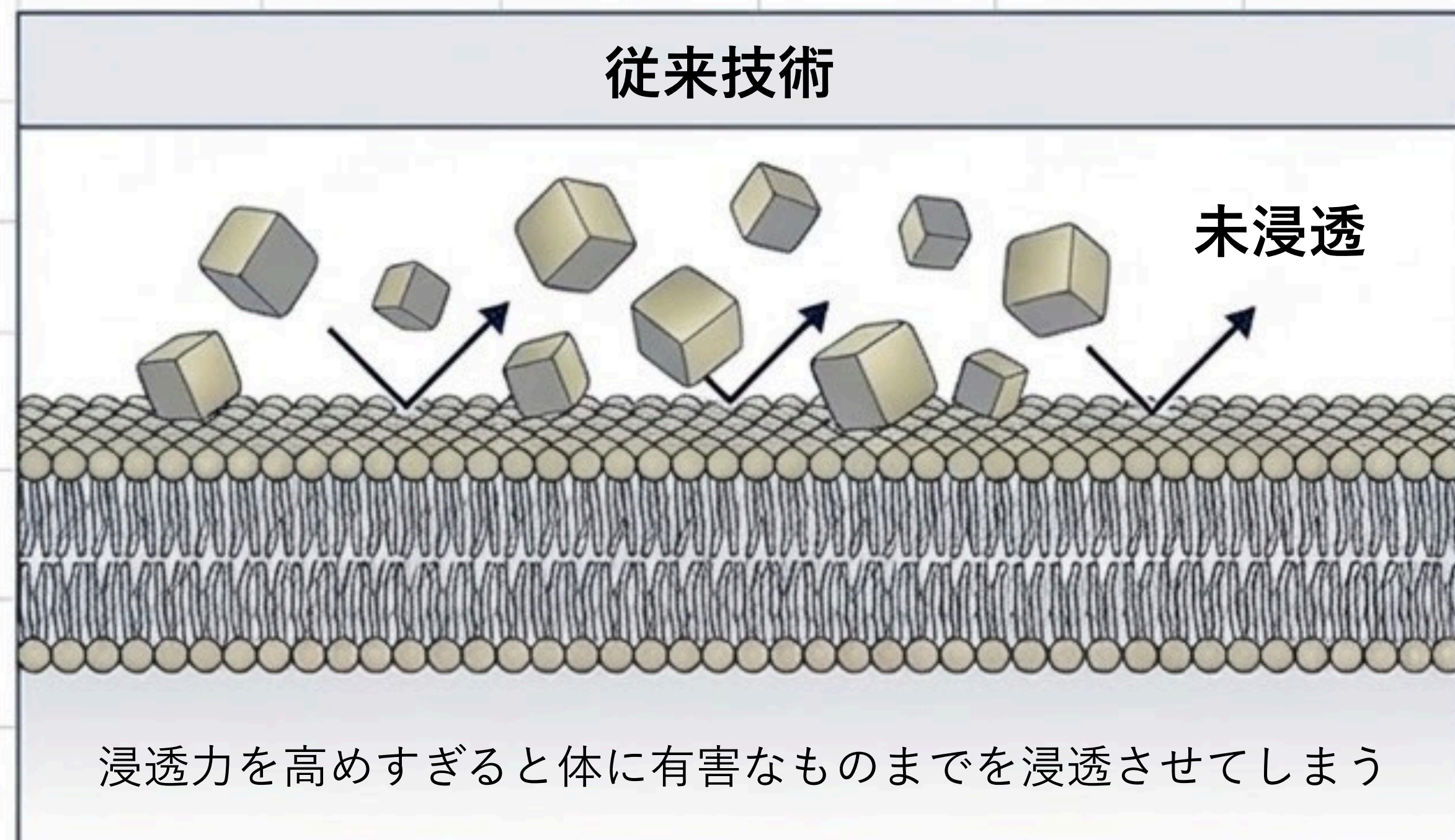
浸透設計を高めた高付加価値加工。

株式会社ICEの独自先端技術が

iPS培養上清液の効果効能を更に向上。



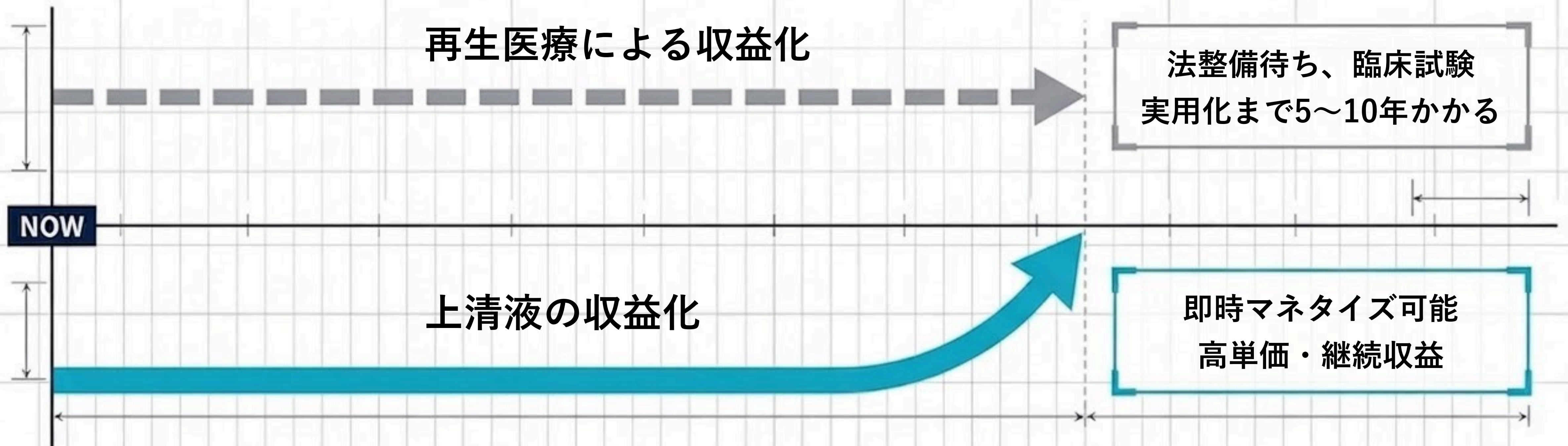
# 絶対的競争優位性：浸透力を10倍化するICEの独自先端技術



ICE独自の最先端DDS（ドラッグデリバリーシステム）iPS培養上清液に、細胞親和性の高いリン脂質でできたナノメートル（10億分の1）サイズのカプセル化処理を施す。

他社がiPS培養上清液を作れても「ハイリポ化技術」がある以上、同じ土俵には立てない。この技術があるからこそ我々は価格競争から脱却し、高単価ビジネスモデルを運営できる。

# 未来の再生医療よりも「現在のiPS培養上清液」で収益化を加速



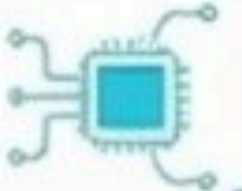
iPS細胞本体を体内に戻す再生医療の実用化にはまだまだ時間がかかってしまうため  
我々はそこを主戦場とせず、今すぐ収益化できる培養上清液に特化。

未来の法整備を待つ数年先の収益化ビジネスではなく、  
即時利益を生み出し続ける「高単価&長期継続型の事業」である。

# 総括

株式会社ICEとの戦略的パートナーシップによりiPS市場へ本格参入

**Market:** 国策の推進に伴い拡大するiPSブルーオーシャン市場 

**Tech:** 他社を突き放す「ハイリポ化」と「特許許諾体制」 

**Business:** 即時収益と長期継続が両立する高単価ビジネスモデル 

国策という強力な追い風、圧倒的な技術的優位性、そして万全の事業推進体制が揃いました。

SCPPを通じ、共に未来のiPS市場を創造していきましょう。

# 会社概要

会社名	株式会社SCPP
設立日	2011年11月17日
代表取締役	植田 雄輝
取締役	平山 敬博
資本金	50,000,000円
住所	東京都港区赤坂1-12-32 アークヒルズ 森ビル12F
従業員数	48名（代理店20社以上）

